

## 第六十九日目

師 範：ヨーロッパの諸国は20世紀になると、対立がはげしくなりました。

ドイツ・イタリア・オーストリアは同盟を結んで、外交をしていました。

イギリス・フランス・ロシアはそれを包むように手を結びました。

バルカン半島の民族対立を火種に、第一次世界大戦が始まりました。



日本は、日英同盟を理由に連合国に加わった。中国も連合国に加わりました。

日本は、ヨーロッパの国がアジア、特に中国や太平洋に手が回らないことを利用して、中国の山東半島のドイツ支配地を占領し、太平洋の赤道以北のドイツ

支配地を占領しました。

さらに、アジア向けのヨーロッパ製品が、戦争で出回らなくなると、日本製品がどんどん売れるようになりました。

また造船もヨーロッパから注文を受けてさかんになりました。

大戦景気といって、日本は日露戦争の時の国際的な借金の返済に困り、輸入超過に悩んでいたのが、一度にふっとんでしまいました。

1914年には11億円も借りていたのが、1920年ころでは外国に27億円も貸す国になっていたのです。

このように日本に大きな影響をあたえた第一次世界大戦は1914年から始まり、1918年まで続きました。

### 1914年 第一次世界大戦がはじまる。

この年を覚えましょう。

ペン太：では



**「日本は大戦を待って行く人よ」**

「いく」は19、「ひと」は1、「よ」は4です。

師 範：ヨーロッパが戦場となって、産業はどこおり、経済活動はおとろえる。

大隈重信首相は「絶好のチャンス」と言って、イギリスがなんと言おうと、参戦して、利益を得ようと思いました。

そんなふん意気が伝わる作品ですね。

コン太：日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦の三つはちょうど、10年ごとにおこっています。1894年、1904年、1914年ですからね。



この点から三つを順番とともに覚えておくと便利です。

